

仙台市亶理郡亶理町

発災前 人口 35,585人 11,442 世帯 73.21km²
(亶理町役場 応急危険度 危険)

3月24日 午後10時 山形市内にて災害対策委員長庫川氏、災害対策委員会担当理事森岡氏、東北支部支部長水戸部氏と懇談

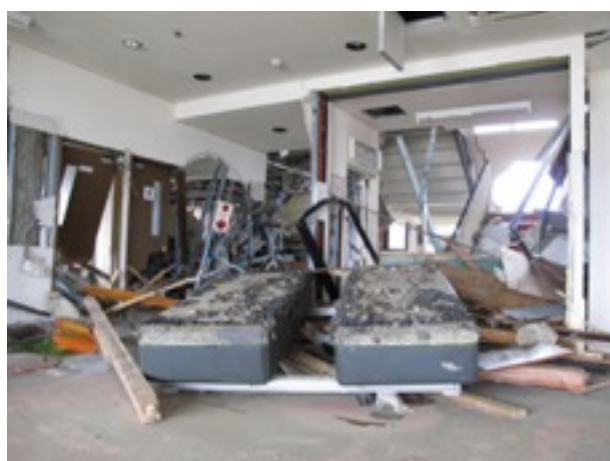
3月25日 午前9時～午後5時 亶理町 荒浜地区鳥の海 24戸
亶理町 荒浜地区 星 28戸
宮城地域会長 渋谷尚さんと郡山貞子 応急危険度判定を実施 (鳥の海)
宮城県建築士会 星ひとみさん 同上 (星)用途：戸建て住宅、旅館、民宿、工場等
規模：木造2階建て 5件鉄骨造 内1件4階建て
仕上：乾式（薄板サイディング）が多数、ALC板50mm外壁、損傷概要：津波被害の大多数は隣家やかなりの距離を流された家屋、船舶等の衝撃によるものである。津波の方向に添ってサッシ部分から激流を受けた様子が見て取れた。1階天井部分まで浸水の後が残っている。サッシ建具の破壊、外壁の破壊が多く見られた。木造の躯体は腐朽等なく、耐震金物が正しく施工されているものについては傾倒等見られないものが多くあった。
津波による屋根の損傷は少ない。

結果：黄色紙（要注意）＞赤紙（危険）＞緑紙（調査済）5枚

3月26日 午前9時～午後5時 亶理町吉田地区字道上、字道下 40棟
宮城地域会 遠藤喜行さん、関東甲信越支部 郡山毅さんと応急危険度判定を実施用途：特産苺農家の母家住宅、農機具収納と別世帯用住宅、納屋
規模：木造2階建て、木造平屋、2件鉄骨造平屋
仕上：湿式外壁、乾式外壁、ALC板50mm損傷概要：津波の侵入方向に奥行き200mの松林があったがそれが海に面する1列を残し全てなぎ倒された。巨大な松による被害が甚大。
「いちご御殿」と呼ばれるほど大規模な住宅が目立つ。
母家、納屋との併用住宅が一棟となっていたためピロティ状の車庫部分から激流の衝撃で構造体まで損傷が見られる。
健全な工事メンテナンスのされた母家は躯体の損傷は見られない。

結果：黄色紙（要注意）＞赤紙（危険）＞緑紙（調査済）2枚

発災後2週間経っているが床下の浸水が完全に乾いてはいない。住宅の復旧するためには先ず床下の泥土を撤去しないとならない。構造躯体は1978年の宮城県沖地震を経て基礎、緊結金物、構造材の大きさ等耐震意識が高くその結果かこの地域では、地震による倒壊はほとんど見られない。
津波災害と地震災害とは異なったものにも係らず、応急危険度判定の用紙に添って判定を下すため多少の項目の調整が必要。



波消しブロックが建物内部まで侵入



荒浜在住JIA東北支部 渋谷さん
ご自身も被災された中応急危険度判定に奔走



<3月24日-26日当時のアクセス状況等> あくまで当日の状況で、刻々と変化しています。

■ガソリンは入手難、高速道路のSAで給油が前提、但し入れられても数量制限

往路：佐野SAで¥2,0000-上限（13l）、国見SAで同左

復路：緊急車両専用のスタンド（巨理町専用）で、補給（一日10lの制限有り：自費）

■宿泊：山形市のホテルを拠点にし、被災地へ通う。（片道80km）

夜間の暖房無し。寝袋持参。

■食事：被災地での調達是不可能と考えた方がよい。山形市内も営業時間を短縮しているので困難。支援活動日の昼食調達に注意。

我々は、前日夜に高速道路のPA等で、おにぎり、菓子パン等を調達。水持参。

山形市内のスーパーは開店しているが、数量制限あり（特に携帯食品になるようなモノ）

■高速道路料金のみ免除：救助車両扱い。但し事前に必要書類を揃えておく必要あり（HPで確認）

また、ETCを使用すると不可。入口で通行券を受け取り、出口で手続き。

尚、首都高速は対象外なので注意。

■福島原子力発電所から約70km。

24日-26日にかけて： 概ね $0.39\mu\text{Sv/h}$

参考までに同時期の東京

3月22日以降 概ね $0.13\mu\text{Sv/h}$

平時年間平均 概ね $0.035\mu\text{Sv/h}$